



ごあいさつ

委員長 高橋 裕美

この一年、「命の尊さ 大切さ」をテーマに活動してまいりました。たくさんの方々に出会い、つながり、支えていただいた一年を振り返り、母親委員会の活動にご理解とご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。県P連母親委員会では、情報交換を通して、子どもたちの現状や課題を共有し、様々な点で学び合いました。さらに、各郡・市PTAにおいては、それぞれの状況に合わせて、母親の視点をいかしての活動の取組みが見られました。母親同士が、支え合うネットワークづくりは、これからも大切にしていきたい活動の一つです。

9月に福島で開催された東北ブロック研究大会の分科会で「発達障害の理解と支援」の基調講演をお聴きしました。昔なら、特別は、特殊なこととして分けていましたが、今は、支援していくことで、共に学ぶのだということに改めて学ぶことができました。連携のあり方では、地域のあたたかさ、自分が楽しむ、支援を必要とする児童のまじめさや誠実さが一体となって、つながっていくというお話に共感いたしました。

社会環境の変化に子どもたちが流されることなく、子どもたちの健やかな育ちを見守りながら、親も共に育っていききたいと切に願います。



《山形市》

- ・母親委員会 2回
- ・拡大母親委員会 1回
講師 和田英光氏 (NPO 法人おやじ日本理事)
「未来を担う子どもたちに伝えたいこと」
- ・「マザーズねっとわーく」発行

《西村山地区》

- ・母親委員会 3回 *協議 *講演会
講師:井上聡子氏 (さとこ女性クリニック院長)
「家庭でしてほしい、いのちと性のお話」
- ・代表委員会 3回 (母親委員会の企画運営)

《北村山地区》

- ・村山市母親委員会(各校の母親委員会実践例で発表し啓発する。「ピーマムむらやま」発行)
- ・大石田町母親委員会(講演会)
- ・尾花沢市母親委員会(単位PTAでの活動のみ)

《遊佐町》

- ・母親委員会 3回
*研修「やさしい笑顔とやさしいことば」
～おしゃか様の教えから～ 講師 石川茂稔氏
- ・母親委員会だより発行

《東田川郡》

- ・母親委員会 2回
(活動報告・情報交換等)

活動報告

《米沢市》

- ・母親委員会 4回
*情報交換…3回
*講演会…1回
(単位PTAの母親委員の方々も一生懸命で、出席率は常時80%を超えます。)

《鶴岡市》

- ・第1回母親委員会(6/25)
*年間計画、情報交換等
- ・第2回母親委員会(11/13)
*研修第1部「身体ストレス解消でスッキリ」
*研修第2部「グループに分かれて井戸端会議」
- ・事務局会(情報交換・おたよりについて)

《東置賜地区》

- ・地区P代表母親委員1名が県P母親委員会に出席しています。

《酒田市》

- ・母親委員長等会議 2回
①情報交換 ②講演会
- ・酒田市PTA研修大会への協力

《最上地区》

- ・定例母親委員会 2回
- ・地区母親委員会全員研修会年1回
講演「子どもの独立期を楽しむために」
講師 高橋芳子氏 (元山形大学教授)
演習「(続)PTA活動における家庭教育支援の企画」～思春期の子どもを持つ親への支援編

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会並びに母の集い
講演「ネット社会の現状と防止について」
～子どもをトラブルから守るために～
講師 若浜のぞみ氏 (株)NTTドコモ東北支社
- ・「母親委員会だより」発行

《西置賜地区》

- ・定例母親委員会 2回
- ・母親委員会だより発行(各校活動報告等)

《上山市》

- ・母親委員会 1回、
- ・研修会、情報交換 1回
講演「親子のかかわり～子どもの心に寄り添うには～」
講師 高橋芳子氏 (元山形大学教育学部教授)

「命の尊さ 大切さ」 ～子どもの心に寄り添う親の学び～ 研修報告



インターネットに関する研修

「ネット社会の現状とネット犯罪防止について」

10月5日、NTTドコモ東北支社より若浜のぞみ氏を講師に迎え、保護者・教員向けのケータイ安全教室の研修を行いました。今では、パソコンやケータイだけでなく、ゲーム機・音楽プレイヤーでもインターネット犯罪にあう確率も高くなってきています。また、被害者になるだけでなく、軽はずみな行為が、加害者になってしまうことも忘れてはいけません。

子どもをトラブルから、守るためには・・・？

◎ケータイを持たせるということは、「責任」も一緒に
もたせるということ。

◎我が家でのルールを作ること。

◎トラブルにあったときには、いつでも相談できる
家庭環境をつくっておく。

子どもを守る最後の砦が家庭であることを自覚し、
親も子もケータイの正しい使い方を身につける必要が
あると感じました。

天童・東村山 大場 由美子

「インターネットの安心安全な使い方」

～子どもをネット社会の
被害者・加害者にならないために～

11月30日の西置賜地区PTA連絡協議会にて、
総務省東北総合通信局の岡元紀氏による講演がありま
した。私たち大人は一定の年齢になってからネットを
使うようになりましたが子どもたちは生まれた時から
ゲームやケータイ、ネットに囲まれて育っているため、
使うことが「当然」と思っている、ということをお聞
きし、改めて使い方を間違えないように私たち親が、
子どもたちと話をしていかなければならないと実感し
ました。見ず知らずの人とでも、何度もメールのやり
取りをしていると、まるで昔からの友人のようになって
しまうというお話から、ネット社会の恐ろしさを痛
感しました。

西置賜 赤間 弘美

命・心に関する研修

「家庭でしてほしい、いのちと性のお話」

9月12日、さとこ女性クリニック院長の井上聡子氏
を講師に迎え講演会を行いました。性に関する現状・
問題そしてその問題を解決するための対応や家庭で
いのちに関して話をする時に気をつけたいことなど、
大変貴重なお話をいただきました。今回のテーマであ
る性教育に関しては大切さを十分にわかっているも、
常にどうやって家庭で話をすればいいかという迷い
と隣り合わせです。井上先生のお話で、私はたくさん
のことを気づかせていただくことができました。先ず
は、自分自身がいのちや性に真摯に向き合うことや、
改めて、家庭で子どもと向き合い、いのちや性につ
いて話をする事の大切さを知り、それを実践してい
かなければと思いました。

西村山 海野 真子



「やさしい気持ちになれるあったか講演会」

11月20日遊佐町長泉院住職石川茂稔氏を迎え講演
会を行いました。ご本人が農家に生まれながらも和尚
さんになるまでの話、修行をおこなった福井県から遊
佐町までの600キロをあるいて帰った時のエピソード
や、紙芝居を読んでもいただきました。

最後にあたたかくなる講話。ご飯のときの「いた
だきます」は「人が生きるためにこれから食する命を
いただきます」と手をあわせる感謝の心。「おはよう」
「ありがとう」の声かけは、相手の心をぱっと明るく
できる。そして、自分を産んでくれた親に「ありが
と」と感謝の気持ちを言ってみよう・・・

遊佐町 佐藤 美佳

【 親子のかかわり ～子どもの心に寄り添うには～ 】

第2回母親委員会時に
研修しました

講師：高橋 芳子氏（元山形大学教育学部教授）

日時：2013年9月21日（土）13:30～15:00

場所：山形まなび館 交流ルーム4

■ 講師の紹介

25年間中学校で体育と美術の教師として生徒と関わり、45歳から幼児教育の勉強をして山形大学教授となる。現在は、幼児教育の専門家として多方面で活躍されている。

■ 研修の内容

Step 1

スキンシップを通して子どもの気持ちに寄り添う

<幼児～小学校>

母性的な教育・遊びから学ぶ・優しく元気に包み込む
(心をつないでいく教育 → 約束を学んでいく)

字

関心を持たせるのは幼児教育

教え方がうまいのは小学校

- ・子どもは、言葉だけ覚えるのではない
- ・子どもに自己決定させる → 生きる力に繋がる → 計画を立てて一人で行かせる → 自立



Step 2

子どもは家庭の中で育つ

- ・指示待ち症候群にならないために
しっかり抱いて → 下におろして → 一人で行かせる = 一人で生きていける子に育つ

Step 3

反抗期だと思えば本質が見えなくなる ⇒ 独立期とみる

<中学校～高校> 子どもの心に寄り添うことが必要

- ・この子は今、独立しようとしているのだ・・・心に余裕を持ってほしい
- ・価値観の再構築期でもある

思春期の子どものと、親子のなになかなか気持ちが変わらない様な気がして、どうしたらよいのだろうか？と考えていました。子どもが親にバンバン反発したら、それは子どもが親から独立しようとしているサイン『反抗期は独立期』というお話に、ちゃんと成長しているのだと安心しました。子どもとの関わりは成長と共に『抱いて、下におろして、一人で行かせて』独立期を迎え一人で行かせる時期こそ、私たちが子どもの心に寄り添う時期なのだと感じました。

上山市 佐竹 直子

県内で初の着衣水泳を確立された高橋芳子氏の体験に基づく、幼少期から中・高生の時期に至るまで広い範囲で子どもに接する事についてのお話を沢山聞くことができ、感動の時間を過ごしました。幼少の時期でも、しっかりと自分を持っていて、子ども同士の絆があることを再確認できました。また、「抱っこすれば自死しない」という言葉が強く印象に残り、死にたくなるほどの状況に追い込まれても、母親に抱っこしてもらった記憶が脳裏をよぎり歯止めがかかるのと体験をお聞きした時には、もう涙が自然に出ておりました。「子どもとどれだけ笑顔で接していることができるか」という言葉も強く印象に残り、今でも思い出し、子どもの顔を見てもつこり笑うように心がけております。私自身も少しゆつたりなれる気がします。

米沢市 奥村 富子

「素敵な時間に感謝」
なぜだろう？「高橋先生のこの話、前回は聞いたなあ」と思っても、聴く度に違った感動があるのは・・・。
末っ子が中三で、子育てもファイナルステージといった私は、先生の講話は三回目。今回は、三人の我が子たちとの子育て風景が、ちよこちよここと頭に浮かんできました。実話を多く取り入れ、物語のように引き込まれていく高橋先生の講話は、自分と子どもたちの成長に伴い悩んだところはもちろん、自分が、今、立ち向かっている子育ての場面では特に心に響きました。だから、何度聴いても新鮮で、大きな感動が得られるのだと気付けた本場に素敵な研修の時間でした。

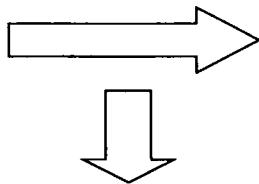
鶴岡市 秋葉 恵

「正しく怖がる」「ネットの失敗で人生を台無しにしない」 子どもたちのネットモラルを高めるためにはどう取り組むか？

現状の問題

- ① 人間関係トラブルに関する事
- ② 情報発信トラブルに関する事
- ③ 健康課題面に関する事
- ④ 情報セキュリティに関する事
- ⑤ 経済課題面に関する事

ディスカッションでは



どうやったら安全に使えるか
 フィルタリング、ペアレンタルコントロール
 親も勉強する、親同士の情報交換
 ↳ 保護者間の連携
 子どもと話し合ってルールを作ること
 守れるルール、違反が明確、気分次第×

問題になった時に子どもが親に話せる・親が気付ける

根本には…
 子どもの規範意識

自分できちんと、安全に適切に対応できるように育てること

私は桑崎先生の話の中で「スマホに子守をさせないで」という子育ての言葉が、一番心に残りました。子どもの心の変化を見抜けない親になっていないかを、自分に問いかける機会を持てた事は、大きな宝物を頂いたような気持ちでいっぱいになりました。家では子どもとの何気ない会話も楽しんでます。これからも子どもとのコミュニケーションは大事にしていきたいし、だめなものはだめとはっきり言える親になりたいと改めて感じました。
 東置賜 市川 穂波

今は携帯を持たせない、させない、という時代ではない。子どもと一緒に考えて、便利な道具を賢く使える子どもを育てる時代なんだなあと思いが覚める思いでした。まずは家庭で、人としての基礎をしっかりと築いていかなければと思いました。
 天童・東村山 大場 由美子

「ネットは子どもだけの問題ではない」

今回、ネットキャラバン研修会に参加して、この情報化社会で避けられないネットに関するトラブルについて、自分の子どもを守るのは親としての重大な責任であると感じた。スマホ・パソコンだけでなく、ミュージックプレーヤー、ゲーム機など Wi-Fi 接続可能機器の利用にあたり、家庭でのルール作りは必須であり、上からの押し付けだけではなく、一緒にルールを考えるとというのが重要だということが印象的だった。手の中で繰り広げられる世界は、実は外につながっていて、他人への影響や逆に自分も攻撃されることもあるのだということを知っておかないと、一生後悔する事態に陥ることもあるのだ。ネットモラルは本当は現実社会のモラル(道徳)となんら変わらないのであるということ親子だけでなく、保護者同士、また地域の方々とも話し合う機会が必要だと思う。

酒田市 秋葉 富美子

編集委員

高橋裕美(山形市)/佐竹直子(上山市)
 大場由美子(天童・東村山)/海野真子(西村山)



あとがき

「親子のかかわり」大人の言う事を聞かないから反抗という、それは大人目線。『反抗期』は子どもが親から独立しようとしている『独立期』。私たち親が、子ども心に寄り添い、子どもたちからのサインを見逃さないようにしていきたいと感じています。ありがとうございました。
 副母親委員長 佐竹 直子